

く、反對に政黨との妥協苟合を敢てするに至つたことは、それが眞の國策協定に墮せなかつたとは云へ、國家の爲め誠に遺憾の至りである。

是に於て吾人は齋藤首相が今後も引續き國政を變換することが果して、非常時日本の爲め有利とするや否やの問題を検討せねばならぬ。

第一齋藤首相は此非常時に於ける國政を處理する爲め舉國一致を要すると力説した。吾人亦全然感を同うする者であるが、只首相が既成政黨と妥協苟合して以て舉國一致成れりと思惟するに至つては大なる錯覺と謂はねばならぬ。是れ今日の政黨員の大部は金力權力等有らゆる不正手段を以て國民代表の資格を濫ち獲たものであつて所詮偽造の國民代表であることは五・一五事件の審判を待たずとも、既に國民周知の事實である。故に若し今日總選舉を行はば現代議士の大部は失脚して、之に代はるに遙に健實にして愛國の志を有する代表を得べきは吾人の確信する處であつて、此新なる議會と提携してこそ始めて眞の舉國一致は得らるべきである。此手續きを履まざる限り齋藤内閣は眞に舉國一致の支持を得たるものに非ずして、從て非常時を負擔するの資格を疑はるゝも止むを得ないであらう。

次に齋藤内閣は確固たる國策を有せず又之を斷行すべき力を持たぬことを擧げねばならぬ。組閣以來此内閣の爲す處を通觀するに、何等一定の方針なく、所謂「其日暮らし」行き當り「バツタリ」で、或は政友會に左右せられ、又は民政黨に制肘せらる。時に荒木内閣の觀ありと思へば忽ちにして高橋内閣の態となり、左顧右眄齋藤首

相は單に關係の調停役たるに止まり、自ら一貫せる大方針の下に關係を統率するの抱負も經綸もない様である。而かも驚く勿れ組閣後十五箇月も經て國策の協定を行はんとせるを。是れ非常時十五箇月の間全く國策も政策もなく、成り行きに任せ來れるを自白せるものでなくて何であらう。此の如き無爲無策、勇斷なく統一なき無力内閣を以て果して二年の後に迫れる超非常時に對する準備施設を完備し得べきや。是れ吾人が遺憾ながら確信を以て否定せねばならぬ所である。

故に吾人は既に齋藤内閣に見切りをつけべきではあるが、重大なる時局の關係上尙一應之に勸告したいと思ふ。即ち首相は以上の缺陷及誤謬に鑑み、政黨との妥協が尙未だ完全ならざるを幸ひ、直に之れとの腐れ縁を清算し、速に独自の政策を確立して勇往邁進すべきである。關係にして反對せば内閣改造に猛進すべく、議會之を妨害せば解散を斷行すべきである。かゝる勇斷を示さば失墜せる國民の信頼は始めて之を恢復し得べく、茲に昭和維新の途は拓られ、皇國の前途は洋々たる希望に滿つるであらう。若し不幸にして議會の解散を斷行して政界の淨化を策するの勇氣なくして徒に腐敗政黨と妥協苟合に墮するなら、昭和十年の一大國難を眼前に控ふる今日齋藤内閣の存在は、寧ろ有害無益と信する故に、吾人は齋藤首相に自決を勸告しなければならぬ。

五相會議に對する要望

昭和八年十月十四日